

# お茶の水女子大学学报

平成 12 年 7 月 1 日

お茶の水女子大学庶務課

## 目 次

◇ 学 内 規 則 .....	2	◎表 彰 .....	39
◎お茶の水女子大学核燃料物質計量管理規程 を廃止する規程 .....	2	◎研 修 .....	40
◎お茶の水女子大学核燃料物質計量管理規程 ...	3	◎平成12年度科学研究費補助金配分決定一覧 ...	41
◎お茶の水女子大学外国人受託研修員規程の 一部を改正する規程 .....	5	◇ 日 誌 .....	48
◎お茶の水女子大学情報処理センター規程の 一部を改正する規程 .....	6		
◇ 人 事 .....	7		
◇ 学 事 .....	11		
◎平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士後期課程）学生募集要項 .....	11		
◎平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士後期課程）外国人留学生募 集要項 .....	15		
◎平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士後期課程）進学者選考要項 ...	19		
◎平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士前期課程）学生募集要項 .....	23		
◎平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士前期課程）外国人留学生募 集要項 .....	28		
◇ 諸 報 .....	33		
◎名誉教授の称号授与 .....	33		
◎お茶の水女子大学SCS御披露目の会 .....	37		
◎第1回お茶の水女子大学運営諮問会議 .....	38		

## 学 内 規 則

○平成12年お茶の水女子大学規則第34号

お茶の水女子大学核燃料物質計量管理規程を廃止する規程を次のように定める。

平成12年5月24日

お茶の水女子大学長 佐 藤 保

お茶の水女子大学核燃料物質計量管理規程を廃止する規程

お茶の水女子大学核燃料物質計量管理規程（昭和53年12月20日制定）は廃止する。

附 則

この規程は、平成12年5月24日から施行する。

○平成12年お茶の水女子大学規則第35号

お茶の水女子大学核燃料物質計量管理規程を次のように定める。

平成12年5月24日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学核燃料物質計量管理規程

(目的)

第1条 この規程は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和32年法律第166号。以下「法律」という。）第61条の8第1項の規定に基づきお茶の水女子大学（以下「本学」という。）における法律第61条の3第1項に定める国際規制物資の使用の承認（法律第76条に基づく。）を得た全ての核燃料物質の計量及び管理（以下「計量管理」という。）に関する事項を定め、もって核燃料物質の適正な計量管理を確保することを目的とする。

(計量管理責任者)

第2条 本学における核燃料物質の計量管理のために計量管理責任者を置くものとする。

2 本学における計量管理は、計量管理責任者の責任のもとに行う。

3 本学における計量管理責任者は、理学部生物学科主任とする。

(核燃料物質計量管理区域の設定)

第3条 本学における核燃料物質計量管理区域（以下「MBA」という。）は、本学全体をもって設定し、計量管理はこのMBAを基礎として行う。

2 本学のMBAの符号はKSKRとする。

(受入れ、払出し及び廃棄に関する手続)

第4条 計量管理責任者は、核燃料物質の受入れ、払出し及び廃棄に立会い、当該受入れ、払出し及び廃棄の数量をその都度記録するものとする。

(消費、損失等に関する手続)

第5条 計量管理責任者は、消費、損失等により核燃料物質の増減が生じた場合には、当該増減の数量を毎月1回記録するものとする。

(事故損失に関する手続)

第6条 計量管理責任者は、事故により核燃料物質の損失が生じたとき又は生じたときみなされたときは、その都度数量を確定し、記録するものとする。

(記録)

第7条 計量管理責任者は、第4条、第5条並びに第6条の記録を作成し、作成後10年間本学理学部に保存するものとする。

2 前項の記録には、次の各号に定める事項を記録するものとする。

- 一 在庫変動の日付
- 二 在庫変動の原因又は理由
- 三 受入れ又は払出し事業所名及びMBA名
- 四 供給当事国（日米協定の新旧の区分含む。）
- 五 核燃料物質の種類
- 六 核燃料物質の数量

第8条 計量管理責任者は、供給当事国ごとの核燃料物質の種類別の在庫量に関する記録を毎月1回作成し、10年間保存するものとする。

(報告)

第9条 計量管理責任者は、法律第67条第1項及び国際規制物資の使用等に関する規則(昭和36年総理府令第50号)第7条第19項の規定に基づく毎年1月1日から6月30日までの期間及び7月1日から12月31日までの期間の報告書が当該期間の経過後1月以内に科学技術庁長官へ提出されていることを確認するものとする。

附 則

この規程は、平成12年6月26日から施行する。

○平成12年お茶の水女子大学規則第36号

お茶の水女子大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成12年6月21日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学外国人受託研修員規程（平成10年9月24日制定）の一部を次のように改正する。

第8条中「、次のとおりとする。」を「1か月を単位として区分する。」に改め、表を削除する。

附 則

この規程は、平成12年6月21日から施行し、平成12年4月1日から適用する。

○平成12年お茶の水女子大学規則第37号

お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成12年6月21日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学情報処理センター規程（昭和63年7月13日制定）の一部を次のように改正する。

第5条第3項中「講師」を「助手」に改める。

附 則

この規程は、平成12年6月21日から施行する。

# 人 事

## ○人事異動

発令年月日	氏 名	官 職 等	異動前の所属・職名
◇ 退 職			
12. 5. 31	王 冬 梅	辞 職 承 認	助 手 (生活科学部)
◇ 採 用			
12. 6. 1	MIKALS-ADACHI EILEEN BERNADETTE	講 師 (文教育学部)	

## ◎非常勤講師

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
◇ 採 用				
12. 5. 1	早 崎 捷 治	講 師 (附属高等学校)	12. 7. 31	中国帰国就学促進センター教務第二課長 国立音楽大学教授
12. 6. 1	池上摩希子	” (文教育学部)	13. 3. 31	
12. 6. 26	鵜 崎 庚 一	” ”	”	
◇ 併 任				
12. 5. 1	石 川 統	講 師 (理 学 部)	12. 9. 30	東 京 大 学 教 授
◇ 兼 担				
12. 5. 1	秋 山 晶 子	講 師 (理 学 部)	12. 9. 30	附 属 中 学 校 教 諭
”	田 口 裕 子	” ”	”	”
12. 6. 1	相 原 貴 史	” (文教育学部)	”	附 属 小 学 校 教 諭
◇ 退 職				
12. 6. 30	山 内 忠	講 師 (文教育学部)		
”	リサ・ナイト	” (附属中学校)		

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採 用				
12. 5. 1	木村東花	教務補佐員 (文教育学部)	13. 3. 31	
"	猪阪久未	事務補佐員	"	
"	田中恵子	教務補佐員 (理学部)	12. 7. 31	
"	井上京子	"	"	
"	石渡啓子	"	"	
"	岡田朋子	"	13. 3. 31	
"	横山知香	事務補佐員 (生活環境研究センター)	"	
12. 5. 16	大中村苗	教務補佐員 (文教育学部)	"	
"	前田真理	" (理学部)	"	
12. 5. 25	横山真代	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	13. 2. 28	
"	中矢由紀	"	"	
"	濱崎真理	"	"	
"	大劉群子	"	"	
"	真本純子	"	12. 9. 30	
"	米元美登	"	13. 2. 28	
"	島山理恵	"	"	
"	原瑞穂	"	"	
"	飯田明日	"	"	
"	江本セイ	"	"	
"	高屋敷優	"	"	
"	石橋曜典	"	"	
"	前関由紀	"	12. 9. 30	
"	戸田亮子	"	"	
"	中野千秋	"	13. 2. 28	
"	大倉持江	"	"	
"	中島瑞穂	"	12. 9. 30	
"	毛利聖子	"	13. 2. 28	
"	大河野陽美	"	"	
"	今山由香	"	12. 9. 30	
"	小塚山愛子	"	"	
"	畑山京子	"	"	
"	塚村香子	"	13. 2. 28	
"	小島泰代	"	"	
"	中澤ちひ	"	"	
"	染永玲奈	"	12. 9. 30	
"	森真理子	"	"	
"	山口陽子	"	"	
"	山谷純子	"	13. 2. 28	
"	竹沢泰子	"	"	
"	岡村貴子	"	12. 9. 30	
"	橋藤望美子	"	"	
"	近藤桐子	"	"	
"	平林こず	"	"	
"	池井恵寛	"	"	
"		"	"	



発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
12. 5. 25	杉本あゆみ	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	12. 9. 30	
"	森竹利奈	"	"	
"	本山由美	"	"	
"	本久米加江	"	"	
"	角越美紀	"	"	
"	清村水千	"	"	
"	村山上文	"	"	
"	山田領彩	"	"	
"	大工藤和	"	"	
"	篠原亜紀	"	"	
"	天野山綾	"	13. 2. 28	
"	中島多加	"	"	
"	清岩水英	"	"	
"	加藤悠子	"	12. 9. 30	
"	谷川華奈	"	"	
"	野田彰子	"	"	
"	胡宮下小	"	"	
"	遠藤綾乃	"	"	
"	曹内海原	"	13. 2. 28	
"	相三枝	"	"	
"	瀬田山村	"	12. 9. 30	
"	東田直	"	13. 2. 28	
"	鈴木朝	"	"	
"	本若森幸	"	"	
"	和田和	"	"	
"	丸智子	"	"	
"	藤英乃	"	"	
"	町貴子	"	"	
"	丁真佐美	"	"	
"	大中香	"	"	
"	田崎洋	"	"	
"	市川祐	"	12. 9. 30	
"	野平山	"	"	
"	池田和嘉	"	"	
"	亀口ま	"	13. 2. 28	
"	平和田	"	"	
"	張大室	"	"	
"	古田美	"	"	
"	伊田み	"	12. 9. 30	
"	鼠尾ま	"	13. 2. 28	
"	小林久	"	"	
12. 6. 1	橋爪里	事務補佐員 (学生課)	13. 3. 31	
"	圓城寺	"	"	
"	長谷川	"	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
12. 6. 1	櫻井聖子	教務補佐員 (生活科学部)	12. 9. 30	
"	高橋愛子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	13. 3. 31	
"	高山道代	" "	"	
"	杉浦まそみ	" "	"	
"	渡瀬典子	" "	"	
"	徐阿貴	" "	"	
"	堀有喜衣	" "	"	
"	國本正子	" "	"	
"	清和千佳	" "	"	
"	山王丸靖子	" "	"	
"	鈴木佳苗	" "	"	
"	北島佐知子	" "	"	
12. 6. 16	村田文子	教務補佐員 (理学部)	"	

◇ 配置換

12. 5. 1	田村恵理	教務補佐員 (文教育学部)	13. 3. 31	事務補佐員(文教育学部)
----------	------	---------------	-----------	--------------

# 学 事

## ○平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程） 学生募集要項

### 1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較社会文化学専攻	18名	実施しない	平成13年3月5日～7日
国際日本学専攻	11名		
人間発達科学専攻	15名		
人間環境科学専攻	16名		
複合領域科学専攻	13名		
		平成12年9月20日～21日	

※ 募集人員には、進学者が含まれる。

### 3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※ (郵送とする)	平成12年 8月21日(月)～8月24日(木) (当日消印有効)	平成13年 1月31日(水)～2月5日(月) (当日消印有効)
言語試験	9月20日(水)	3月5日(月)
口述試験	9月20日(水)～9月21日(木)	3月5日(月)～3月7日(水)
合格発表 ☆	9月26日(火)	3月13日(火)

※ 出願は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

但し、出願資格(5)に該当する者は、の出願期間は、次のとおりとする。

(検定料と検定料納付書を除いた出願書類を提出すること)

9月入試 : 平成12年8月7日(月)～8月9日(水) 当日消印有効

3月入試 : 平成13年1月15日(月)～1月17日(水) 当日消印有効

受験票等は、後日郵送する。

☆ 15時30分頃に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 本学の博士前期課程・修士課程に在籍する学生(平成12年9月修了見込の者も含む。)

及び「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

平成13年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻	合計
入学定員	18	11	15	16	13	73

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較社会文化学専攻	比較社会論	社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。
	国際文化論	世界、特に欧米とアジアの文化を言語や文学、思想を中心として研究し、我が国における異文化理解を深める。
	表象芸術論	比較対照的な分析方法にかえて、芸術作品、芸術活動の国際性、社会性という視点からの分析を強化する。
	科学文化論	自然科学と人文科学の学際分野での研究・教育だけでなく哲学的視野をもった自然科学あるいは数理・情動的知識を背景にもつ人文科学など、高度に総合的な科学文化を追求する。

	専攻名	講座名	要旨
国際 日 本 学 専 攻	古代から現代に至る日本の言語文化と社会に関する幅広い学問領域（日本文学、日本語教育、日本史学、地理学、舞踊学等）を結集し、学際的・総合的に研究・教育を行う。	総合 日本 学	文学・語学・美術・芸能などの諸分野の文化が個別に追求してきた課題を言語文化・生活文化・伝統文化などの概念のもとに史的展開を明らかにしつつ総合的に考究し、諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		日本 分析 論	近現代における日本の社会・政治・経済・文化などをめぐる諸問題を分析し、その普遍性・特殊性を明らかにするとともに諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		応用 日本 言語 論	多角的かつ総合的観点から日本語を中心にして研究を進め、その研究成果を応用して言語教育の方法を探究する。
人 間 発 達 科 学 専 攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達 基礎 論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特徴も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達 臨床 論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達 社会 環境 論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジェ ン ダ ー 論	ジェンダー概念の成立史と現時点での理論的検討及び内外のジェンダーに関わる諸問題、実証的・政策的課題を、ジェンダー研究の視点から解明する。

	専 攻 名	講座名	要 旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	相関生命科学	生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。
		生活システム科学	生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。
		食環境科学	老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をミクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点を用いてグローバルに解明する。
		数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
		物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、ミクロ及びマクロな視点から解明する。
		複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

○平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）  
外国人留学生学生募集要項

1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較社会文化学専攻	若干名	実施しない	平成13年3月5日～7日
国際日本学専攻	若干名		
人間発達科学専攻	若干名		
人間環境科学専攻	若干名	平成12年9月20日～21日	
複合領域科学専攻	若干名		

3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※ (郵送とする)	平成12年 8月21日(月)～8月24日(木) (当日消印有効)	平成13年 1月31日(水)～2月5日(月) (当日消印有効)
言語試験	9月20日(水)	3月5日(月)
口述試験	9月20日(水)～9月21日(木)	3月5日(月)～3月7日(水)
合格発表 ☆	9月26日(火)	3月13日(火)

※ 出願は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

但し、出願資格(5)に該当する者は、の出願期間は、次のとおりとする。

(検定料と検定料納付書を除いた出願書類を提出すること)

9月入試 : 平成12年8月7日(月)～8月9日(水)当日消印有効

3月入試 : 平成13年1月15日(月)～1月17日(水)当日消印有効

受験票等は、後日郵送する。

☆ 15時30分頃に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 本学の博士前期課程・修士課程に在籍する学生(平成12年9月修了見込の者も含む。)

及び「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

平成13年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び募集人員

専攻名	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻
入学定員	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名		講座名	要旨
比較 社会 文化 学 専 攻	社会と文化、科学の分野にわたる高度に学際的かつ総合的な研究を行い、人間文化の基礎理論の確立を目指すとともに、特に社会分析性、国際性、人文科学と自然科学の融合に視点をおいた研究・教育を行う。	比較社会論	社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。
		国際文化論	世界、特に欧米とアジアの文化を言語や文学、思想を中心として研究し、我が国における異文化理解を深める。
		表象芸術論	比較対照的な分析方法にかえて、芸術作品、芸術活動の国際性、社会性という視点からの分析を強化する。
		科学文化論	自然科学と人文科学の学際分野での研究・教育だけでなく哲学的視野をもった自然科学あるいは数理・情動的知識を背景にもつ人文科学など、高度に総合的な科学文化を追求する。



	専攻名	講座名	要 旨
国際 日 本 学 専 攻	古代から現代に至る日本の言語文化と社会に関する幅広い学問領域（日本文学、日本語教育、日本史学、地理学、舞踊学等）を結集し、学際的・総合的に研究・教育を行う。	総合 日本 学	文学・語学・美術・芸能などの諸分野の文化が個別に追求してきた課題を言語文化・生活文化・伝統文化などの概念のもとに史的展開を明らかにしつつ総合的に考究し、諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		日本 分析 論	近現代における日本の社会・政治・経済・文化などをめぐる諸問題を分析し、その普遍性・特殊性を明らかにするとともに諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		応用 日本 言語 論	多角的かつ総合的観点から日本語を中心にして研究を進め、その研究成果を応用して言語教育の方法を探究する。
人 間 発 達 科 学 専 攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達 基礎 論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特質も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達 臨床 論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達 社会 環境 論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジェ ン ダ ー 論	ジェンダー概念の成立史と現時点での理論的検討及び内外のジェンダーに関わる諸問題、実証的・政策的課題を、ジェンダー研究の視点から解明する。

	専攻名	講座名	要旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	相関生命科学	生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。
		生活システム科学	生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。
		食環境科学	老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をミクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点を用いてグローバルに解明する。
		数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
		物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、ミクロ及びマクロな視点から解明する。
		複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

○平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）  
進学者選考要項

1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較社会文化学専攻	18名	実施しない	平成13年3月5日～7日
国際日本学専攻	11名		
人間発達科学専攻	15名		
人間環境科学専攻	16名	平成12年9月20日～21日	
複合領域科学専攻	13名		

※ 募集人員には、進学以外の一般選抜の募集人員を含む。

3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※ (郵送とする)	平成12年 8月21日(月)～8月24日(木) (当日消印有効)	平成13年 1月31日(水)～2月5日(月) (当日消印有効)
口述試験	9月20日(水)～9月21日(木)	3月5日(月)～3月7日(水)
合格発表 ☆	9月26日(火)	3月13日(火)

※ 出願は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。  
受験票等は後日郵送する。

☆ 15時30分頃に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。  
合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 本学の博士前期課程・修士課程に在籍する学生(平成12年9月修了見込の者も含む。)

及び「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

平成13年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻	合計
入学定員	18	11	15	16	13	73

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較社会文化学専攻	比較社会論	社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。
	国際文化論	世界、特に欧米とアジアの文化を言語や文学、思想を中心として研究し、我が国における異文化理解を深める。
	表象芸術論	比較対照的な分析方法にかえて、芸術作品、芸術活動の国際性、社会性という視点からの分析を強化する。
	科学文化論	自然科学と人文科学の学際分野での研究・教育だけでなく哲学的視野をもった自然科学あるいは数理・情動的知識を背景にもつ人文科学など、高度に総合的な科学文化を追求する。

	専攻名	講座名	要旨
国際 日 本 学 専 攻	古代から現代に至る日本の言語文化と社会に関する幅広い学問領域（日本文学、日本語教育、日本史学、地理学、舞踊学等）を結集し、学際的・総合的に研究・教育を行う。	総合 日本 学	文学・語学・美術・芸能などの諸分野の文化が個別に追求してきた課題を言語文化・生活文化・伝統文化などの概念のもとに史的展開を明らかにしつつ総合的に考究し、諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		日本 分析 論	近現代における日本の社会・政治・経済・文化などをめぐる諸問題を分析し、その普遍性・特殊性を明らかにするとともに諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		応用 日本 言語 論	多角的かつ総合的観点から日本語を中心にして研究を進め、その研究成果を応用して言語教育の方法を探究する。
人 間 発 達 科 学 専 攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達 基礎 論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特質も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達 臨床 論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達 社会 環境 論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジェ ン ダ ー 論	ジェンダー概念の成立史と現時点での理論的検討及び内外のジェンダーに関わる諸問題、実証的・政策的課題を、ジェンダー研究の視点から解明する。

	専攻名	講座名	要旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	相関生命科学	生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。
		生活システム科学	生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。
		食環境科学	老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をミクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点を用いてグローバルに解明する。
		数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
		物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、ミクロ及びマクロな視点から解明する。
		複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

○平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）  
学生募集要項

1. 募集人員

専攻	入学定員	募集人員（一般選抜）	募集人員（社会人特別選抜）	
言語文化専攻	32名	*32名	5名	日本語教育コース
人文学専攻	28名	28名		
発達社会科学専攻	43名	*43名	若干名	社会臨床論コース
ライフサイエンス専攻	45名	45名		
物質科学専攻	23名	23名		
数理・情報科学専攻	25名	*25名	若干名	情報科学コース及び応用数理コース
計	196名	196名		

\* 募集人員には、社会人特別選抜の募集人員を含む。

2. 試験期日

専攻	9月入試	2月入試
	試験期日	試験期日
言語文化専攻	平成12年8月31日(木) 9月1日(金)	平成13年2月8日(木)・9日(金) 日本語教育コースのみ 2月8日(木)・9日(金)・10日(土)
人文学専攻		平成13年2月8日(木)・9日(金)
発達社会科学専攻		
ライフサイエンス専攻		
物質科学専攻		
数理・情報科学専攻		

3. 出願期間

9月入試：平成12年8月1日(火)～8月4日(金)（8月3日付けの消印有効）

2月入試：平成13年1月9日(火)～1月12日(金)（1月11日付けの消印有効）

（注）言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻は、9月入試は実施しない。

## 専攻及びコースの概要

### ① 言語文化専攻

人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。

具体的には、日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語のそれぞれの言語と、これらの言語を用いて営まれている文学をはじめとする文化活動を、あるいは個別的に深く分析し、あるいは比較対照的に幅広く考察する。

さらに、国内外で活躍できる日本語教育・研究の専門家の養成を行う。

#### ○ 日本言語文化学

多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。

#### ○ アジア言語文化学

中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照的研究も行う。

#### ○ 英語圏・欧州言語文化学

英米文学を中心として広く英語圏の文学と文化および英語学を研究する英語圏言語文化専修と、仏文学を中心として広く仏語圏の文学と文化および仏語学を研究する仏語圏言語文化専修に分かれるが、その共通の姿勢として、独語圏を含む各言語圏のあいだの比較対照など、総合的に研究することも留意する。語学の分野では、英語学・仏語学とともに、第二言語教授法などの実用面の研究を併せて行う。

#### ○ 日本語教育

国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度且つ多様な要望にこたえうる日本語教育学の研究者並びに実践的日本語教員の養成と、日本語教育社会人の再教育を行う。

### ② 人文学専攻

哲学・史学・生活文化学などの狭い意味での人文諸学に、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、人文諸学の領域の拡大を図るとともに、それら細分化していた教育・研究体制を統合することにより、身体活動をふくむ人間の文化活動を歴史的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することをめざす。

#### ○ 思想文化学

本コースは「哲学」と「倫理学」（「日本倫理想史」）とに分かれている。「哲学」は主に西洋哲学を対象とするが、特に議論を通して様々な理論や具体的な問題について根本的かつ緻密に考える能力の養成に重点をおいた教育を行う。

「日本倫理想史」は、神道、仏教、儒教を中心とする文献講読や調査を基に、広く日本思想の本質を探究することをテーマとした教育研究を行う。

#### ○ 歴史文化学

近代ヨーロッパ美術と南アジアの仏教美術を主とする美術史学と日本・東洋・西洋を対象とする歴史学をドッキングさせることによって、文字資料に造形資料、視覚資料の分析を加えて総合した多角的な研究を目指す。

#### ○ 服飾文化学

近年、日本および欧米で服飾の研究が増大しているのを踏まえ、時代、地域、社会、美意識、生活感情などとの関係の中で服飾を研究する。現代の風俗についても、「流行情報特論」を開講し、現代の感性の動向を数量的解析とフィールドワークによって分析する。

#### ○ 舞踊・表現行動学

舞踊並びに人間の表現行動について、芸術、民族、教育などの学際的な視点から総合的に教育・研究を行う。実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に習得した専門の人材（研究者、指導者、上演者など）を育成する。

#### ○ 音楽表現学

音楽を文化象徴として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化や音楽と社会との関連を扱う。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を中心的な対象にして、身体行動による表現技術の研究を実証的に行い、国際的に通用する演奏者を養成する。



## ① 発達社会科学専攻（発達人間科学系）

社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。

### ○ 教育科学

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。

基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。

### ○ 心理学

心理学コースでは、健全な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。

そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「発達情報管理論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。

### ○ 発達臨床心理学

発達臨床心理学の教育及び研究を行う。臨床心理学を柱として、特に家庭や学校・幼稚園の場における心理臨床的かつ発達のな問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養う。

### ○ 応用社会学

現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会的に研究する。

人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会問題を扱う「社会福祉論」などを開講する。

### ○ 社会臨床論

不適応やストレスなど、子どもや教師・親の抱える諸問題を理解する上で、現在何より求められているのは、それをとりまく社会の文化的・歴史的状況を踏まえた理解である。社会臨床論コースは、このような臨床場面と社会との関連を重視する新たな分野であり、研究者志望者だけでなく、実務家志望者にとっても大いに得るものがあると思われる。

対象とする子どもは乳幼児から青少年までに及び、またスタッフの学問的背景も、文化心理学、教育社会学、保育学、家政学など多様である。授業では、これらの学問的見地から、諸問題について理解が深められるとともに、それらを解明するための方法論の習得が目指される。

## ② 発達社会科学専攻（生活・開発科学系）

「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」及び「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題－代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成など－に的確に対処するには、既存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。

### ○ 生活政策学

高齢社会化、生活をめぐる諸価値の多様化、生活のグローバル化、女性の社会的活動領域の拡大の中で生ずる生活・家族・女性に関する諸問題を、法学・政治学・経済学・社会学の各分野から研究する。

開講科目は、生活法社会論、生活政治論、消費者問題論、生活経済論、長寿社会論、家族関係論、生活情報論など。家庭科教育学特論を履修して家庭科教員専修免許状も取得できる。

### ○ 地理環境学

地理環境学コースの主要な関心は、現実の世界において空間的に展開している人間－環境関係である。自然地理学及び人文地理学の観点から、この関係を分析する方法論、並びにデータないしは情報の収集・分析に関する講義・演習が開講されている。

○ 開発・ジェンダー論

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え、開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することを目指し、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

ジェンダー概念の成立と現在の論点を検討する「ジェンダー開発論」、ジェンダー概念を比較文化的に研究する「ジェンダー文化論」、ジェンダーの視点から社会政策を検討する「女性政策論」、女性の視点から経済学の枠組みを再構築する「フェミニスト経済学」、社会開発・人間開発の諸過程を地球規模の視野で比較検討する「比較ジェンダー開発論」、途上国と先進国を事例に国家の開発政策とその有効性を考える「地域開発政策論」、地域研究とフィールドワークとの関係を再考する「開発地域文化論」などを開講する。

◎ ライフサイエンス専攻 (生活科学系)

人間の生命活動である生活は文化的なものであり、生活のあらゆる面にわたって他生物とは異なる様相が見られる。中でも、自然環境としてのいろいろな物質や他の生物を技術により利用し、人間の衣食住などの日常生活に役立てている点は、生活の物質的基盤を与えるものとして大変重要であり、この方面における学問的発展は全人類から期待されている。そのために、食品科学、栄養科学の他、人間生活工学、環境生活工学、さらにこれらの基礎となる生物としての人間そのものを探求する生物人間科学の計5コースを置き、専門的教育研究を行う。

○ 食品科学

食品は栄養素の供給と共に、人間の生活を安全に豊かなものにする役割をになっている。食品の嗜好性を決める因子は多岐にわたっており、最新の物理的、化学的解析手法を駆使して、食品組織の状態の解明、味や香りなどの嗜好成分の分析などにより、食嗜好を客観的に評価する手法、研究体系の確立をめざす。

また、新しい食品加工技術としてのバイオテクノロジーや食品工学の手法を導入し、食資源確保の観点から加工・貯蔵の新方法を検討する。これらの研究領域を統合して最終的には、それらを食品として摂取する人間の受容機構を明らかにし、現代の我が国で起きている食に関するさまざまな問題点の解決をはかる。

○ 栄養科学

健康の維持・増進には、栄養状態や身体の恒常性維持が重要である。生体内における食物成分の変化や動態、そして、栄養素の代謝と機能について理解を深めるとともに、食品成分の栄養生理機能、生体調節機能、ストレスに対する生体防御機構などの解析を中心に教育・研究を行う。これら栄養素の生体内において果たす役割を背景とし、老化や成人病の予防・発症の遅延、そして、自然環境の変化を含む各種ストレスに対する生体の適応反応について、食物の摂取による代謝調節や制御、食生活や生活行動に基づく健康維持への効果を含めて解説する。

○ 人間生活工学

我々の生活の舞台である住居と、住居が集まって形成される都市について探究する。住居・都市を取り巻く音熱、光、空気について我々の生活に及ぼす影響を研究する。

また、人工的環境を創造する空気調和・衛生工学、エネルギー問題、地球環境問題と住居の関わりについて探究する。

さらに、生活や環境における諸現象・諸問題を物理的・工学的観点より研究する。生態への物理的刺激とその応用、中医学の基礎理論、言語の構造と機能などを探究する。

○ 環境生活工学

人間の生活を直接支持かつ支配している生活材料・生活環境を研究・教育の対象としている。生活材料としては特に、消臭材料や高吸水性材料などについて必要な機能・物性、最適な設計、開発手法、そしてこれらの材料に関する工学的成果をいかに生活に活かすかを検討している。

また、洗浄や染色・仕上げ加工の機構など、繊維製品の取り扱いに関連した基礎的事項の究明を目指している。生活環境としては、必須因子である水について、人間にとって安全かつ快適な水環境を構築していくための方法論及びその評価方法などについて工学的に取り扱っている。

○ 生物人間科学

人間は生活の主体であり、生活をよりよいものとするためには人間についての理解を深めることが極めて大切である。

本コースは人間を自然科学的に探究することを目指し、人間の身体的側面を中心とした本質、由来、変異、適応などのデータ収集と分析を行い、生物としての人間に関する専門教育研究を行うが、そのことにより、優れた生活用品の開発や心身の健康増進にも新しい視野を与えることが期待される。

## ① ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

生命科学系は、地球上の生物に共通して見られる生命現象を解明し、生命の起源以来三十数億年の間進化してきた多様性と独自性を特徴とする生命とは何かを追求する生物学に関する教育・研究を行う。

さらには、食物・健康・環境などの諸問題と取り組む基本となる新しい先端科学技術を捉え直す基盤形成をも目指して研究・教育を行う。

### ○ 分子生物学

分子生物学を基盤として、生体物質の生化学・物理化学的解析方法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合し、動植物にかかわる基本的、かつ、高次な生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析することを中心に研究・教育を行う。

糖鎖分子・糖質分子科学、生化学、分子生理学、分子遺伝学、分子細胞生物学などの学問分野が含まれる。

### ○ 生命体科学

生命現象の背後には、生体調節や生体防御に関する大小さまざまなシステムがあり、生物種によって著しく多様化、複雑化している。

本コースでは、生命体活動の基本素子となる生体分子の構造と機能の研究を基盤とし、細胞、組織、器官及びシステムとして構成される個体レベルの構造と機能、さらには、そうした仕組みの進化にわたる多角的な研究・教育を行う。生理学、発生学、遺伝学、進化学などの学問分野が含まれる。

## ② 物質科学専攻

ミクロから宇宙スケールにおよぶ物質の構造と形成過程、フェムト秒から億年にわたる現象のダイナミクスなど、物質が示すあらゆる性質を解明し予測することを目的に、物理学と化学によるアプローチを総合して研究・教育を行う。

### ○ 相関物質科学

相転移、パターン形成、溶液の構造、ガラス、磁気スピングラス、非線形反応などの非線形・非平衡系について、物理・化学の両面から、統合的な教育・研究を行う。

### ○ 分子科学

分子や分子集団の構造、物性及び反応に関する理論と実験についての教育・研究を行う。

### ○ 物理科学

究極の物質構成単位の素粒子から、その集合体の原子・分子・結晶、さらに宇宙の構造までを支配する原理・法則を探究する実験と理論の研究・教育を行う。

## ③ 数理・情報科学専攻

数学と情報科学は互いに連携しつつ、自然科学のみならず広範な領域での現象の解明に不可欠な基盤となっており、また幅広い分野で活用されている。本専攻では、様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開、数学とコンピュータによる自然科学諸分野の現象の数理科学的解明、様々な分野の情報に対するコンピュータによる接近法及び得られた情報の表現法の開発等に関する高度な専門教育と研究を行う。

### ○ 情報科学

コンピュータによるデータの処理に関連する基礎研究及びその自然科学分野への応用に関する教育・研究を行う。

### ○ 応用数理

情報科学の基礎づけや計算機支援による理学研究に関わる分野での数理科学の教育・研究を行う。

### ○ 数 学

様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開に関する高度な専門教育と研究を行う。

○平成13年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）  
外国人留学生募集要項

1. 募集人員・試験期日

専攻	募集人員	9月入試	2月入試
		試験期日	試験期日
言語文化専攻	若干名		平成13年2月8日(木)・9日(金) 日本語教育コースのみ 2月8日(木)・9日(金)・10日(土)
人文学専攻	若干名		平成12年8月31日(木) 9月1日(金)
発達社会科学専攻	若干名		
ライフサイエンス専攻	若干名		
物質科学専攻	若干名		
数理・情報科学専攻	若干名		

2. 出願期間

9月入試：平成12年8月1日(火)～8月4日(金)（8月3日付けの消印有効）

2月入試：平成13年1月9日(火)～1月12日(金)（1月11日付けの消印有効）

（注）言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻は、9月入試は実施しない。

## 専攻及びコースの概要

### ① 言語文化専攻

人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。

具体的には、日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語のそれぞれの言語と、これらの言語を用いて営まれている文学をはじめとする文化活動を、あるいは個別的に深く分析し、あるいは比較対照的に幅広く考察する。

さらに、国内外で活躍できる日本語教育・研究の専門家の養成を行う。

#### ○ 日本言語文化学

多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。

#### ○ アジア言語文化学

中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。

中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照的研究も行う。

#### ○ 英語圏・欧州言語文化学

英米文学を中心として広く英語圏の文学と文化および英語学を研究する英語圏言語文化専修と、仏文学を中心として広く仏語圏の文学と文化および仏語学を研究する仏語圏言語文化専修に分かれるが、その共通の姿勢として、独語圏を含む各言語圏のあいだの比較対照など、総合的に研究することも留意する。語学の分野では、英語学・仏語学とともに、第二言語教授法などの実用面の研究を併せて行う。

#### ○ 日本語教育

国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度且つ多様な要望にこたえうる日本語教育学の研究者並びに実践的日本語教員の養成と、日本語教育社会人の再教育を行う。

### ② 人文学専攻

哲学・史学・生活文化学などの狭い意味での人文諸学に、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、人文諸学の領域の拡大を図るとともに、それら細分化していた教育・研究体制を統合することにより、身体活動をふくむ人間の文化活動を歴史的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することをめざす。

#### ○ 思想文化学

本コースは「哲学」と「倫理学」（「日本倫理想史」と）に分かれている。「哲学」は主に西洋哲学を対象とするが、特に議論を通して様々な理論や具体的な問題について根本的かつ緻密に考える能力の養成に重点をおいた教育を行う。

「日本倫理想史」は、神道、仏教、儒教を中心とする文献講読や調査を基に、広く日本思想の本質を探究することをテーマとした教育研究を行う。

#### ○ 歴史文化学

近代ヨーロッパ美術と南アジアの仏教美術を主とする美術史学と日本・東洋・西洋を対象とする歴史学をドッキングさせることによって、文字資料に造形資料、視覚資料の分析を加えて総合した多角的な研究を目指す。

#### ○ 服飾文化学

近年、日本および欧米で服飾の研究が増大しているのを踏まえ、時代、地域、社会、美意識、生活感情などとの関係の中で服飾を研究する。現代の風俗についても、「流行情報特論」を開講し、現代の感性の動向を数量的解析とフィールドワークによって分析する。

#### ○ 舞踊・表現行動学

舞踊並びに人間の表現行動について、芸術、民族、教育などの学際的な視点から総合的に教育・研究を行う。実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に習得した専門の人材（研究者、指導者、上演者など）を育成する。

#### ○ 音楽表現学

音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化や音楽と社会との関連を扱う。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を中心的な対象にして、身体行動による表現技術の研究を実証的に行い、国際的に通用する演奏者を養成する。

## ◎ 発達社会科学専攻（発達人間科学系）

社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。

### ○ 教育科学

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。

基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。

### ○ 心理学

心理学コースでは、健全な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。

そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「発達情報管理論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。

### ○ 発達臨床心理学

発達臨床心理学の教育及び研究を行う。臨床心理学を柱として、特に家庭や学校・幼稚園の場における心理臨床的かつ発達のな問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養う。

### ○ 応用社会学

現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会学的に研究する。

人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会問題を扱う「社会福祉論」などを開講する。

### ○ 社会臨床論

不適応やストレスなど、子どもや教師・親の抱える諸問題を理解する上で、現在何より求められているのは、それをとりまく社会の文化的・歴史的状況を踏まえた理解である。社会臨床論コースは、このような臨床場面と社会との関連を重視する新たな分野であり、研究者志望者だけでなく、実務家志望者にとっても大いに得るものがあると思われる。

対象とする子どもは乳幼児から青少年までに及び、またスタッフの学問的背景も、文化心理学、教育社会学、保育学、家政学など多様である。授業では、これらの学問的見地から、諸問題について理解が深められるとともに、それらを解明するための方法論の習得が目指される。

## ◎ 発達社会科学専攻（生活・開発科学系）

「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」及び「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題－代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成など－に的確に対処するには、既存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。

### ○ 生活政策学

高齢社会化、生活をめぐる諸価値の多様化、生活のグローバル化、女性の社会的活動領域の拡大の中で生ずる生活・家族・女性に関する諸問題を、法学・政治学・経済学・社会学の各分野から研究する。

開講科目は、生活法社会学論、生活政治論、消費者問題論、生活経済論、長寿社会学論、家族関係論、生活情報論など。家庭科教育学特論を履修して家庭科教員専修免許状も取得できる。

### ○ 地理環境学

地理環境学コースの主要な関心は、現実の世界において空間的に展開している人間－環境関係である。自然地理学及び人文地理学の観点から、この関係を分析する方法論、並びにデータないしは情報の収集・分析に関する講義・演習が開講されている。

○ 開発・ジェンダー論

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え、開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することを目指し、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

ジェンダー概念の成立と現在の論点を検討する「ジェンダー開発論」、ジェンダー概念を比較文化的に研究する「ジェンダー文化論」、ジェンダーの視点から社会政策を検討する「女性政策論」、女性の視点から経済学の枠組みを再構築する「フェミニスト経済学」、社会開発・人間開発の諸過程を地球規模の視野で比較検討する「比較ジェンダー開発論」、途上国と先進国を事例に国家の開発政策とその有効性を考える「地域開発政策論」、地域研究とフィールドワークとの関係を再考する「開発地域文化論」などを開講する。

② ライフサイエンス専攻(生活科学系)

人間の生命活動である生活は文化的なものであり、生活のあらゆる面にわたって他生物とは異なる様相が見られる。中でも、自然環境としてのいろいろな物質や他の生物を技術により利用し、人間の衣食住などの日常生活に役立てている点は、生活の物質的基盤を与えるものとして大変重要であり、この方面における学問的發展は全人類から期待されている。そのために、食品科学、栄養科学の他、人間生活工学、環境生活工学、さらにこれらの基礎となる生物としての人間そのものを探求する生物人間科学の計5コースを置き、専門的教育研究を行う。

○ 食品科学

食品は栄養素の供給と共に、人間の生活を安全に豊かなものにする役割をになっている。食品の嗜好性を決める因子は多岐にわたっており、最新の物理的、化学的解析手法を駆使して、食品組織の状態の解明、味や香りなどの嗜好成分の分析などにより、食嗜好を客観的に評価する手法、研究体系の確立をめざす。

また、新しい食品加工技術としてのバイオテクノロジーや食品工学の手法を導入し、食資源確保の観点から加工・貯蔵の新方法を検討する。これらの研究領域を統合して最終的には、それらを食品として摂取する人間の受容機構を明らかにし、現代の我が国で起きている食に関するさまざまな問題点の解決をはかる。

○ 栄養科学

健康の維持・増進には、栄養状態や身体の恒常性維持が重要である。生体内における食物成分の変化や動態、そして、栄養素の代謝と機能について理解を深めるとともに、食品成分の栄養生理機能、生体調節機能、ストレスに対する生体防御機構などの解析を中心に教育・研究を行う。これら栄養素の生体内において果たす役割を背景とし、老化や成人病の予防・発症の遅延、そして、自然環境の変化を含む各種ストレスに対する生体の適応反応について、食物の摂取による代謝調節や制御、食生活や生活行動に基づく健康維持への効果を含めて解説する。

○ 人間生活工学

我々の生活の舞台である住居と、住居が集まって形成される都市について探究する。住居・都市を取り巻く音熱、光、空気について我々の生活に及ぼす影響を研究する。

また、人工的環境を創造する空気調和・衛生工学、エネルギー問題、地球環境問題と住居の関わりについて探究する。

さらに、生活や環境における諸現象・諸問題を物理的・工学的観点より研究する。生態への物理的刺激とその応用、中医学の基礎理論、言語の構造と機能などを探究する。

○ 環境生活工学

人間の生活を直接支持かつ支配している生活材料・生活環境を研究・教育の対象としている。生活材料としては特に、消臭材料や高吸水性材料などについて必要な機能・物性、最適な設計、開発手法、そしてこれらの材料に関する工学的成果をいかに生活に活かすかを検討している。

また、洗浄や染色・仕上げ加工の機構など、繊維製品の取り扱いに関連した基礎的事項の究明を目指している。生活環境としては、必須因子である水について、人間にとって安全かつ快適な水環境を構築していくための方法論及びその評価方法などについて工学的に取り扱っている。

○ 生物人間科学

人間は生活の主体であり、生活をよりよいものとするためには人間についての理解を深めることが極めて大切である。

本コースは人間を自然科学的に探究することを目指し、人間の身体的側面を中心とした本質、由来、変異、適応などのデータ収集と分析を行い、生物としての人間に関する専門教育研究を行うが、そのことにより、優れた生活用品の開発や心身の健康増進にも新しい視野を与えることが期待される。

## ① ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

生命科学系は、地球上の生物に共通して見られる生命現象を解明し、生命の起源以来三十数億年の間進化してきた多様性と独自性を特徴とする生命とは何かを追求する生物学に関する教育・研究を行う。

さらには、食物・健康・環境などの諸問題と取り組む基本となる新しい先端科学技術を捉え直す基盤形成をも目指して研究・教育を行う。

### ○ 分子生物学

分子生物学を基盤として、生体物質の生化学・物理化学的解析方法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合し、動植物にかかわる基本的、かつ、高次な生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析することを中心に研究・教育を行う。

糖鎖分子・糖質分子科学、生化学、分子生理学、分子遺伝学、分子細胞生物学などの学問分野が含まれる。

### ○ 生命体科学

生命現象の背後には、生体調節や生体防御に関する大小さまざまなシステムがあり、生物種によって著しく多様化、複雑化している。

本コースでは、生命体活動の基本素子となる生体分子の構造と機能の研究を基盤とし、細胞、組織、器官及びシステムとして構成される個体レベルの構造と機能、さらには、そうした仕組みの進化にわたる多角的な研究・教育を行う。生理学、発生学、遺伝学、進化学などの学問分野が含まれる。

## ② 物質科学専攻

ミクロから宇宙スケールにおよぶ物質の構造と形成過程、フェムト秒から億年にわたる現象のダイナミクスなど、物質が示すあらゆる性質を解明し予測することを目的に、物理学と化学によるアプローチを総合して研究・教育を行う。

### ○ 相関物質科学

相転移、パターン形成、溶液の構造、ガラス、磁気スピングラス、非線形反応などの非線形・非平衡系について、物理・化学の両面から、統合的な教育・研究を行う。

### ○ 分子科学

分子や分子集団の構造、物性及び反応に関する理論と実験についての教育・研究を行う。

### ○ 物理学

究極の物質構成単位の素粒子から、その集合体の原子・分子・結晶、さらに宇宙の構造までを支配する原理・法則を探究する実験と理論の研究・教育を行う。

## ③ 数理・情報科学専攻

数学と情報科学は互いに連携しつつ、自然科学のみならず広範な領域での現象の解明に不可欠な基盤となっており、また幅広い分野で活用されている。本専攻では、様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開、数学とコンピュータによる自然科学諸分野の現象の数理科学的解明、様々な分野の情報に対するコンピュータによる接近法及び得られた情報の表現法の開発等に関する高度な専門教育と研究を行う。

### ○ 情報科学

コンピュータによるデータの処理に関連する基礎研究及びその自然科学分野への応用に関する教育・研究を行う。

### ○ 応用数理

情報科学の基礎づけや計算機支援による理学研究に関わる分野での数理科学の教育・研究を行う。

### ○ 数 学

様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開に関する高度な専門教育と研究を行う。



## 諸 報

### ○名誉教授の称号授与について

平成12年4月26日に下記の方に本学名誉教授の称号が授与されました。

(氏 名)	(元 官 職)
春 日 喬	大学院人間文化研究科教授
原 ひろ子	ジェンダー研究センター教授
五十嵐 脩	生活環境研究センター教授



春日 喬 名誉教授略歴等

生年月日 昭和9年7月8日生

略歴 昭和36年3月 早稲田大学第一文学部文学科英文学専修卒業  
昭和38年3月 東京大学教育学部教育心理学専攻卒業  
昭和40年3月 東京大学大学院教育学研究科教育心理学専門課程修士課程修了  
昭和43年9月 インディアナ大学助手（～昭和43年11月）  
昭和45年3月 東京大学大学院教育学研究科教育心理学専門課程博士課程単位修得退学  
昭和45年4月 お茶の水女子大学文教育学部講師  
昭和47年4月 同 助教授  
昭和54年7月 同 教授  
平成3年10月 同 評議員に併任  
平成10年4月 同 大学院人間文化研究科教授  
平成12年3月 同 停年により退職  
平成12年4月 同 名誉教授

研究業績 発達、認知と臨床の心理学に関して精力的に研究を進められ、その成果は多くの著書及び論文となって現れています。

著書等 思考とコミュニケーション（心理学評論Vol.13） 1970年  
精神病理と情報処理モデルによる対人知覚—対人刺激仮説  
（お茶の水女子大学人文科学紀要第41巻） 1987年  
Long-Term Follow-Up Study of Children Developmentally Retard  
by Early Environmental Deprivation (Genetic, Social, and General  
Psychology Monographs Vol.116) 1990年  
夢現像の構造と機序（お茶の水女子大学人文科学紀要第44巻） 1991年  
その他著書、論文等多数

原 ひろ子 名誉教授略歴等

生年月日 昭和9年6月11日生

略歴 昭和32年3月 東京大学教養学部教養学科文化人類学専攻卒業  
 昭和34年3月 東京大学大学院生物系研究科人類学専門課程修士課程修了  
 昭和34年4月 東京大学大学院生物系研究科人類学専門課程博士課程入学（昭和37年8月退学）  
 昭和34年9月 米国ピッツバーグ大学大学院人類学専攻留学（～昭和35年8月）  
 昭和35年9月 米国プリン・マー大学へ転学  
 昭和39年6月 米国プリン・マー大学大学院にてDoctor of Philosophy in Anthropology取得  
 昭和39年10月 拓殖大学講師兼同大学海外事情研究所研究員  
 昭和41年4月 拓殖大学商学部助教授  
 昭和42年2月 インドネシア大学客員講師  
 昭和51年9月 米国Bryn Mawr College Elizabeth Grey Vining客員教授  
 昭和53年4月 法政大学第一教養部助教授  
 昭和54年3月 お茶の水女子大学家政学部助教授  
 昭和59年4月 同 教授  
 昭和61年7月 同 女性文化研究センター兼任  
 昭和62年4月 同 教授  
 平成8年4月 同 生活環境研究センター教授  
 平成8年5月 同 ジェンダー研究センター教授  
 平成10年4月 同 ジェンダー研究センター長に併任  
 平成12年3月 同 停年により退職  
 平成12年4月 同 名誉教授

研究業績 文化人類学、比較文化・家族研究、開発ジェンダー研究など多岐にわたる学問分野で精力的に研究を進められ、その成果は多くの著書、論文となって現れています。

著書等 子どもの文化人類学 晶文社 1979年  
 中小企業の女性たち 未来社 1987年  
 （昭和63年中小企業研究奨励賞本賞受賞）  
 ジェンダー（ライブラリ相関社会科学2） 新世社 1994年  
 その他著書、論文等多数

五十嵐 脩 名誉教授略歴等

生年月日 昭和9年10月20日生

略 歴 昭和32年3月 東京大学農学部農芸化学科卒業  
昭和34年3月 東京大学大学院化学系研究科農芸化学専攻修士課程修了  
昭和35年3月 東京大学大学院化学系研究科農芸化学専攻博士課程退学  
昭和35年4月 東京大学農学部助手  
昭和42年3月 東京大学大学院にて農学博士の学位取得  
昭和42年11月 お茶の水女子大学家政学部助教授  
昭和55年4月 同 生活環境研究センター助教授  
昭和57年1月 同 教授  
昭和62年4月 同 生活環境研究センター長に併任  
平成9年4月 同 学生部長に併任  
平成12年3月 同 停年により退職  
平成12年4月 同 名誉教授

研究業績 ビタミンEに関する研究において、その独自性が高く評価され、(株)日本栄養・食糧学会学会賞や同学会功労賞を受賞されています。

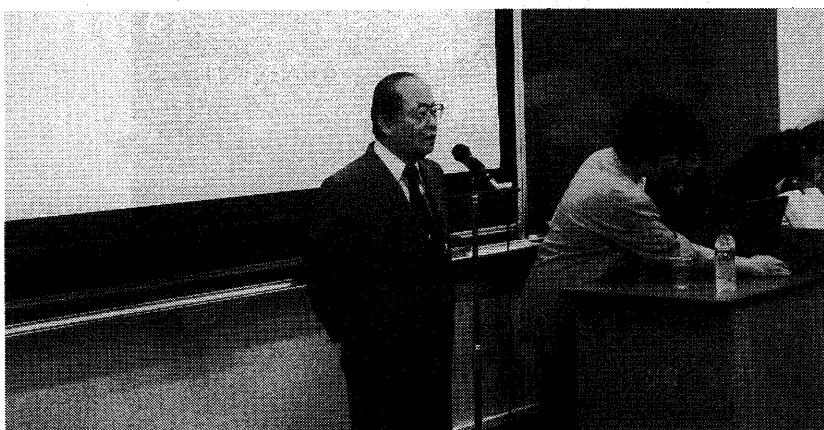
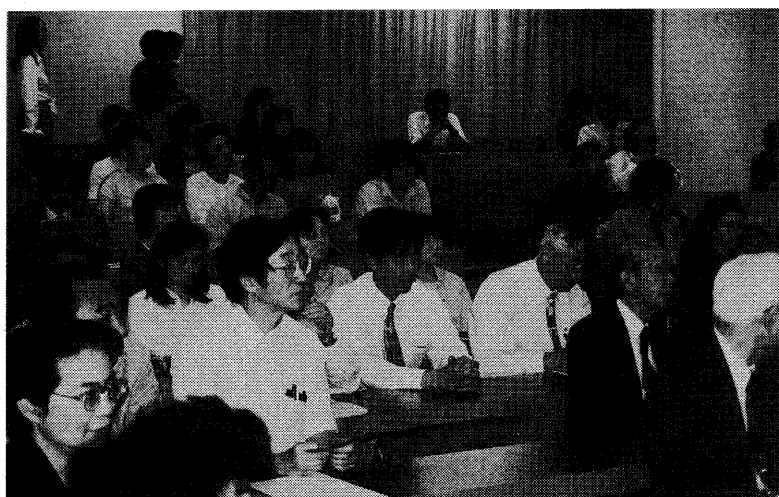
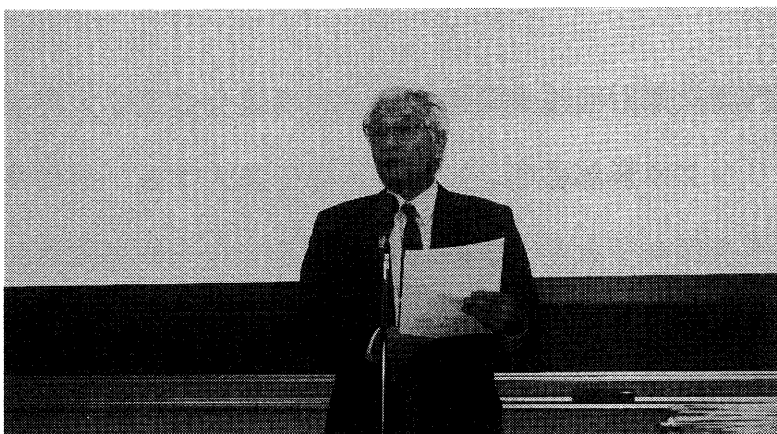
著 書 等 ビタミンE－基礎と臨床 医歯薬出版 1985年  
油脂の栄養と疾病 幸書房 1990年  
脂肪酸の現代的視点 光生館 1998年  
その他著書、論文等多数

## ○お茶の水女子大学SCS御披露目の会について

平成12年5月25日(木)12時45分から、お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム(SCS)の御披露目の会が執り行われました。

このSCSは、昨年春に完成し、全国の大学と人工衛星を介してネットワークを結ぶもので、リアルタイムでの授業・情報交換・会議等が可能である活気的システムであり、大いに利用が期待されています。

当日は、学長、学生部長をはじめ多くの関係教職員が参列し、関係国立大学8校と中継され、盛大に執り行なわれました。



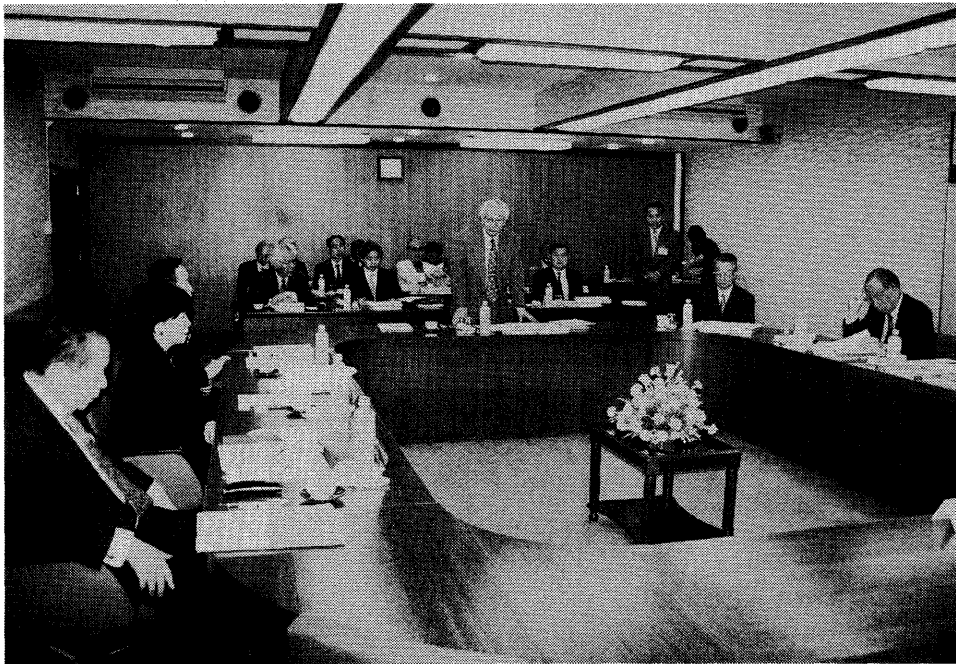
## ○第1回お茶の水女子大学運営諮問会議を開催

お茶の水女子大学では、外部有識者9名の委員で構成される「運営諮問会議」を6月5日、本学内の会議室で開催した。

当日は、佐藤学長の挨拶の後、議長に清水司学校法人渡辺学園理事長・東京家政大学長を選出し、副議長に太田次郎江戸川大学長を指名した。続いて佐藤学長から、「お茶の水女子大学の長期将来展望について」が同会議に諮られ、活発な意見交換が行なわれた。

前出委員以外の委員は、井内慶次郎財団法人日本視聴覚教育協会会長、大島綾子日本鋼管㈱総合エンジニアリング事業部顧問、志村尚子津田塾大学長、奈良高協和発酵工業㈱顧問、丹羽雅子奈良女子大学長、森村稔元㈱リクルート専務取締役、山口信夫旭化成工業㈱代表取締役会長の各氏である。

この運営諮問会議は、毎年2回開催することとし、次回の開催は、11月下旬から12月上旬頃を予定している。



開会の挨拶をする佐藤学長

## ○表 彰

### ○第11回電子情報通信学会データ工学ワークショップ (DEWS2000) 優秀論文賞の受賞について

理学部 藤代 一成 教授、同 市川 哲彦 助教授、人間文化研究科 竹島 由里子 助手、古畑 理香が、平成12年3月2日第11回電子情報通信学会データ工学ワークショップ (DEWS2000) 優秀論文賞を受賞されました。

論文名：「GADGET/IV：情報可視化の半自動設計支援環境」

### ○平成12年度日本食品科学工学会奨励賞の受賞について

人間文化研究科 村田 容常 助教授が、平成12年3月28日平成12年度日本食品科学工学会奨励賞を受賞されました。

業績名：フェノール類と食品の品質に関する化学的・生化学的研究

### ○平成12年度日本家政学会学会賞の受賞について

人間文化研究科 畑江 敬子 教授が、平成12年6月3日平成12年度日本家政学会学会賞を受賞されました。

業績名：食物の嗜好的特性の評価方法の検討と調理・加工による嗜好特性の制御

○研 修

名 称	実施日時	対 象 者	修 了 者	主 催
平成12年度 情報システム統一研修 (第9回ネットワーク応用コース)	平成12年6月12日 ～ 6月15日	ネットワークの構築・管理 運営に従事している者及び従 事する予定がある者	会計課・給与係長 羽根ひろの	総務庁



○平成12年度科学研究費補助金配分決定一覧

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
特定領域研究 (A) (2)		理学部教授	菅本晶夫	2,300	CPの破れを用いた標準模型を越える理論の研究
"		理学部教授	益田祐一	1,600	混合原子価多核フェロセンの集積化と電子移動ダイナミクス -環境の揺らぎの効果-
"		理学部助教授	武次徹也	1,900	内挿法によるab initio ポテンシャル曲面の生成とダイナミクスへの応用
特定領域研究 (C) (2)		理学部教授	室伏きみ子	4,200	環状ホスファチジン酸(cPA) とその誘導体によるがん細胞の浸潤・転移の抑制
地域連携推進 研究(1)		人間文化研究科助教授	伊藤美奈子	2,300	東京都におけるスクールパートナー事業に対する評価と支援に関する実践的研究
基盤研究(B) (1)	一般	理学部教授	中居功	4,200	WEB, ハミルトン系の幾何学と複素力学
"	"	文教育学部教授	平岡公一	2,400	高齢者福祉における自治体行政と公私関係の変容に関する社会学的研究
"	"	生活科学部教授	田中辰明	2,500	住宅の断熱材の位置とカビ発生に関する研究
基盤研究(C) (1)	一般	理学部教授	細矢治夫	1,800	高次元の水素原子の波動関数の導出、表示、及びその物理的意味の発見
基盤研究(A) (2)	一般	理学部教授	福田豊	7,900	刺激性応答型金属錯体の創製とそれらの構造・物性・反応
基盤研究(B) (2)	一般	理学部助教授	小林功佳	900	走査トンネル顕微鏡による表面内部ナノ構造研究のための理論的基礎
"	"	生活科学部教授	無藤隆	1,700	保育における身体知の獲得の過程
"	"	理学部教授	増永良文	2,300	3次元ムービングオブジェクトデータベースの研究
"	"	生活科学部教授	本間清一	7,700	コーヒーの亜鉛キレート性成分の生成要件と構成成分の化学的解明
"	展開	人間文化研究科助教授	伊藤美奈子	3,000	地域と学校とを結ぶメンタル・フレンド制度の開発及び実用化のための実践的研究
"	"	生活環境研究センター教授	倉田忠男	1,500	抗酸化・抗ストレスビタミンによる生活習慣病予防型食習慣の確立
基盤研究(C) (2)	一般	文教育学部教授	秋山光文	800	東南アジア彫刻史上におけるドヴァーラヴァティー様式の成立と展開に関する基礎研究

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
基盤研究(C)(2)	一般	人間文化研究科助教授	竹村和子	800	セクシュアリティの理論構築およびその文学/映像表象の実証研究
"	"	理学部教授	笠原勇二	1,000	Fractional Brownian motionの研究
"	"	人間文化研究科助教授	村田容常	600	遺伝子組み換え植物性食品の安全性の指標としてのタンパク質発現の解析
"	"	文教育学部教授	石口彰	1,300	ニューラルネットワークによる理想観察者の形成と効率分析
"	"	人間文化研究科助教授	伊藤美奈子	1,800	不登校児に<居場所>を提供する適応指導教室の現状と今後の展開に関する実践的研究
"	"	文教育学部教授	耳塚寛明	1,000	高卒無業者の教育社会学的研究 -進路指導の変容と第二次労働市場の構造を中心に-
"	"	文教育学部助教授	三輪建二	800	生涯学習時代の成人の学習-教育方法に関する研究 -大学における成人教育を中心に-
"	"	文教育学部教授	宮尾正樹	600	中国近代文学に表現された「学校」イデオロギーに関する研究
"	"	文教育学部助教授	和田英信	700	中国文学理論の表現形式に関する研究
"	"	文教育学部教授	林廣子	800	環境空間に応じた歌声についての音響学的検討
"	"	理学部助教授	横川光司	1,300	代数多様体の非可換ホッジ構造の研究
"	"	人間文化研究科教授	渡辺ヒサ子	1,100	フラクタルな境界を持つ領域でのポテンシャル論
"	"	理学部教授	菅本晶夫	700	光子-光子衝突型加速器を用いた標準模型を越える物理の現象論的考察
"	"	理学部教授	森川雅博	500	自己重力系の統計力学とダイナミクス
"	"	人間文化研究科教授	富永靖徳	800	水と液体のTHz領域の緩和と振動に対する新しい視点
"	"	人間文化研究科助教授	堀佳也子	700	液晶性物質の分子間相互作用と偶奇効果
"	"	文教育学部助教授	水野勲	400	輸送ネットワークの地域的不均等発展に関する数理モデル研究

研究種目	審査区分	研究代表者所属・職名	氏名	決定額(千円)	研究課題
基盤研究(C)(2)	一般	生活科学部助教授	仲西正	500	高齢化社会に向けての高機能オムツ素材の開発に関する研究
"	"	生活科学部助手	山野春子	900	生物学的手法による紫外線遮蔽加工製品の評価法の開発
"	"	生活科学部教授	久保田紀久枝	1,100	ショウガの新しい酵素系の解明およびその食品機能学的研究
"	"	人間文化研究科助教授	岡崎眸	400	内省モデルに基づく日本語教育実習理論の構築
"	"	理学部教授	藤代一成	1,400	フィールドトポロジー解析に基づくポリウムレンダリングの最適化
"	"	文教育学部助教授	佐藤(頼住)光子	1,000	因果観を手がかりとした道元の行為の理論の研究
"	"	人間文化研究科教授	箕浦康子	1,000	日本における文化接触研究の集大成と理論化
"	"	文教育学部助教授	坂本佳鶴恵	1,100	メディアがもたらす女性の意識変化と家族関係への影響 戦後女性雑誌の送り手・受け手分析
"	"	文教育学部助教授	酒井朗	1,900	デジタル革命時代における子どもの人間関係と生徒指導の課題に関するエスノグラフィー
"	"	人間文化研究科助教授	内田忠賢	900	都市民俗生活誌データベース作成のための基礎研究
"	"	文教育学部助教授	伊藤美重子	900	漢字字書研究の基礎としての『節文解字』受容史研究
"	"	文教育学部助教授	清水徹郎	1,000	マーロウからベケットと20世紀演劇に至る間の古典の書き換えの問題
"	"	文教育学部助教授	松崎毅	1,300	17世紀イギリスの検閲および政治社会的抑圧が隠喩表象の発達に及ぼした影響の研究
"	"	理学部教授	金子晃	1,100	偏微分方程式とトモグラフィの函数解析的及び数値的研究
"	"	人間文化研究科教授	浜谷望	2,400	四面体分子結晶の圧力誘起アモルファス構造の解析
"	"	理学部教授	益田祐一	1,300	スピン-格子緩和時間による超高速プロトン移動速度における溶媒効果の研究
"	"	理学部教授	石和貞男	2,000	昆虫における免疫遺伝子の歴史的多様化に関する分子進化学的研究 -ショウジョウバエアンドロピン遺伝子をモデルとして-

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
基盤研究(C)(2)	一般	理学部助教授	小林 哲幸	1,800	細胞のストレス防御応答に関与するステリルグルコシドの合成誘導と機能の解析
"	"	人間文化研究科教授	畑江 敬子	3,200	貝類の嗜好特性の加熱・貯蔵による変化 -なぜトリガイを生食しないか-
"	"	生活科学部助教授	香西 みどり	3,000	植物性食品のテクスチャーに及ぼす温度および圧力効果
"	"	生活科学部助教授	鈴木 恵美子	2,400	生活環境由来化学ストレス軽減化食生活 -特に、糖尿病およびその予備軍の人たちを対象として-
"	"	理学部助教授	佐藤 一郎	2,100	移動オブジェクトと分散トランザクションを統合する分散システムの設計と実装
"	"	人間文化研究科助教授	小川 温子	2,800	糖鎖による組織修復の制御機構 -細胞外マトリックス分子機能の糖鎖調節-
萌芽的研究		理学部教授	真島 秀行	600	光学の数理解析学的研究
"		理学部教授	山下 貴司	500	TROLL花序論の批判的検証:カヤツリグサ科花序の形態形成を例として
"		理学部助教授	今井 正幸	1,900	メゾ空間に拘束された高分子の相転移
"		生活環境研究センター助教授	富永 典子	2,100	電子レンジ加熱した市販総菜中の内分泌攪乱化学物質濃度の測定
"		人間文化研究科教授	長友 和彦	1,100	第二言語としての日本語の自然習得の可能性と限界
奨励研究(A)		人間文化研究科助教授	坂元 章	1,100	テレビゲーム使用が人間の暴力性に及ぼす影響に関する研究
"		生活科学部助教授	青木 紀久代	900	早期母子相互作用における母親の調律行動と乳幼児の人格形成
"		生活科学部講師	伊藤 亜矢子	900	短縮版学級風土アセスメント質問紙による学級改善方法の臨床的検討
"		理学部助教授	武部 尚志	1,100	共形場理論の可積分系への応用
"		人間文化研究科助手	伊達 敦子	1,000	昆虫の抗菌タンパク遺伝子群の分子進化学的研究 -ショウジョウバエセクロビン遺伝子群を中心として-
"		人間文化研究科助教授	大瀧 雅寛	800	遺伝子学的手法を用いたUV殺菌水処理に伴う光回復現象の解明に関する研究

研究種目	審査 区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
奨励研究(A)		生活科学部助教授	森光康次郎	600	タンパク質酸化傷害マーカーによる食用植物中の抗酸化物質評価系の確立とその探索
〃		人間文化研究科助手	石川百合子	600	歴史的な酸性雨観測データの空間的・時間的変動に関する研究
〃		文教育学部助教授	安成英樹	1,600	フランス絶対王政期における行政官僚のプロソポグラフィ
〃		理学部助手	大場清	1,000	リーマン面のモジュライ空間の位相的性質の研究
〃		理学部助教授	松崎克彦	1,200	リーマン面上の射影構造の離散的ホロノミー表現の研究
〃		理学部助教授	川野はづき	1,400	新しい磁性超伝導体における磁性と超伝導の共存・競合に関する研究
〃		人間文化研究科助教授	出口哲生	1,800	1次元ハバード模型などの可解量子系の準位交差現象と量子力学のレベル反発則の考察
〃		理学部助手	矢島知子	1,500	フッ素アルキルのジアステレオ選択的ラジカル付加反応の研究
〃		理学部助手	塚本(近藤)るみ	1,200	ショウジョウバエ嗅覚レセプター遺伝子群の分子進化学的研究
〃		文教育学部講師	水村真由美	1,800	運動によるプラスの適応を最大にする減量プログラムの開発
〃		人間文化研究科助手	関和陽子	1,500	調理素材の立場から見たショウガの機能性成分の有効性に関する研究
〃		人間文化研究科助手	竹島由里子	1,900	大規模データ解析のための区間型ポリュームのフィールド値分布による詳細度制御

平成12年度科学研究費補助金配分決定一覧（特別研究員奨励費）

所属部局・職	氏名	決定額 (千円)	研究課題
人間文化研究科・特別研究員	小 塩 さとみ	700	長唄の音楽構造－「見えない理論」のモデル化－
人間文化研究科・特別研究員	稲葉（森） 津太子	1,200	対人知覚における文脈効果とその統制可能性の検討
人間文化研究科・特別研究員	洪 江 美	900	Bメソンを用いた標準模型とそれを越える理論の探求
人間文化研究科・特別研究員	道 信 良 子	500	北タイにおける女性工場労働者のAIDS認識とセクシュアリティの形成過程
人間文化研究科・特別研究員	寺 崎 里 水	800	学校文化に対する社会的合意の形成と社会階層
人間文化研究科・特別研究員	原（佐藤）典子	1,200	「看取り」の社会史的考察と専門職化の問題 －日仏看護婦の比較から－
人間文化研究科・特別研究員	藤 井 美保子	800	言語と認識の諸問題：発話と身振りの発生メカニズムの検討
生活環境研究センター・特別研究員	澤 田 留 美	1,200	脂質と必須脂肪酸代謝に及ぼす食事性因子の影響とその作用機構の解明
文 教 育 学 部・特別研究員	桑 田 直 子	1,200	女性の身体の近代化の比較文化史的研究 －女子教育機関の制服導入過程を中心に－
人間文化研究科・特別研究員	高比良 美詠子	1,200	領域に対する志向性が抑うつ発生の生起や改善に及ぼす影響
人間文化研究科・特別研究員	坂 元 桂	1,200	単純接触効果の生起条件と生起プロセス
人間文化研究科・特別研究員	森 本 泉	900	ネパールにおけるインターナショナル・ツーリズムの開発効果
理 学 部・特別研究員	石 塚 玲 子	900	脳におけるアネキシンとプロテオグリカンの役割
人間文化研究科・特別研究員	小 櫛 幸 子	900	拡張された正準形式による超弦理論の解析
人間文化研究科・特別研究員	奥 宮 陽 子	500	旋律の記憶難易度を規程する要因の研究
理 学 部・特別研究員	東山（佐々木） 成 江	1,200	高次ミトコンドリア核を形成する新規タンパク質による1ゲノム遺伝子セットの発現制御
人間文化研究科・特別研究員	齋 藤 瑞 恵	800	幼児における心的単語の理解と知識獲得
理 学 部・特別研究員	梶 本 亮 一	1,200	遷移金属酸化物の電荷整列の中性子散乱による研究

所属部局・職	氏名	決定額 (千円)	研究課題
生活科学部・特別研究員	相澤清香	1,200	体位の変化が体温調節に与える影響
人間文化研究科・特別研究員	内藤まゆみ	1,000	抑うつ者の経験的－合理的情報処理に関する研究
人間文化研究科・特別研究員	酒向治子	1,000	マース・カニングハムのダンスにおけるアジア思想
人間文化研究科・特別研究員	上田晴子	1,000	マメ科樹木由来 糖鎖認識タンパク質の生物機能－プログラム細胞死における酵素活性調節能－
人間文化研究科・特別研究員	榎淵めぐみ	1,000	社会構造が及ぼす心理的影響 －ゲーミングシミュレーションによる研究－
人間文化研究科・特別研究員	鳥居和代	600	青少年の犯罪・不良化対策における「保護」概念の諸相とその意義
人間文化研究科・特別研究員	倉光ミナ子	1,000	「開発」過程における主体である住民から見た地域像－南太平洋・サモアを事例に－
人間文化研究科・特別研究員	上野如子	500	「新古今歌人」源実朝と歌人鏝也の捉え直し及び西国に対する中世東国武士文化の解明
文教育学部 教授	窪添慶文	500	日本における老荘思想の受容
理学部 教授	菅本晶夫	900	Bの物理と弱い相互作用の現象論
人間文化研究科 助教授	大塚常樹	500	日韓近代文学の関連様相に関する研究 －朝鮮人作家による<日本語文学>を中心として
人間文化研究科 助教授	出口哲生	1,000	超対称量子場の理論とカロジェロ・サザーランド模型
生活科学部 助教授	森光康次郎	1,000	食用植物中の機能性含硫化合物の単離とその生理機能解析

# 日 誌

- |  |  |
|--|--|
| <p>5月2日(火) 定期健康診断(附属中学校)</p> <p>8日(月) 定期健康診断(附属幼稚園)<br/>学長補佐会議</p> <p>9日(火) 発明委員会<br/>主任会議<br/>附属中学校避難訓練</p> <p>10日(水) 教授会<br/>人間文化研究科前期専攻会議</p> <p>11日(木) 情報処理センター運営委員会<br/>今後のお茶の水女子大学のあり方に関する検討会<br/>事務職員特別研修</p> <p>15日(月) 名誉教授称号授与式<br/>名誉教授懇談会</p> <p>16日(火) 学生委員会<br/>課長・事務長会議<br/>施設計画委員会<br/>大学案内編集連絡会</p> <p>17日(水) 代議員会<br/>カリキュラム委員会<br/>国際交流委員会留学生専門委員会<br/>理学部入学者選抜方法検討委員会<br/>人間文化研究科後期専攻会議</p> <p>18日(木) 事務職員特別研修<br/>共用体育施設等運営委員会</p> <p>19日(金) 理学部PR委員会</p> <p>22日(月) 献血<br/>教育実習専門委員会<br/>学長補佐会議</p> <p>23日(火) 基本計画委員会<br/>入学試験委員会<br/>入学者選抜方法研究委員会</p> <p>24日(水) 人間文化研究科専攻長会議<br/>部局長会議<br/>評議会</p> <p>25日(木) SCS御披露目の会<br/>事務職員特別研修<br/>四附属校園懇親会<br/>附属幼稚園防災訓練</p> <p>26日(金) 事務連絡協議会<br/>学芸員課程委員会</p> <p>27日(土) 附属高等学校体育祭</p> <p>30日(火) 附属小学校避難訓練</p> <p>31日(水) 開学記念日</p> | <p>学長補佐会議<br/>附属学校教育研究委員会</p> <p>6月1日(木) 事務職員特別研修<br/>インドネシア教員学校訪問</p> <p>3日(土) 附属小学校運動会(下学年)</p> <p>4日(日) 附属小学校運動会(上学年)<br/>附属中学校体育大会</p> <p>5日(月) お茶の水女子大学運営諮問会議<br/>学長補佐会議<br/>理学部第3年次編入学願書受付(～9日)</p> <p>7日(水) 長期教育プログラム検討特別委員会<br/>人間文化研究科後期専攻会議</p> <p>8日(木) 紀要(自然科学報告)編集委員会<br/>事務職員特別研修</p> <p>9日(金) 学長補佐会議</p> <p>12日(月) 課長・事務長会議<br/>ホームページ運営委員会<br/>学長候補者選考規程の見直しに関するワーキング・グループ<br/>情報処理センター運営委員会</p> <p>13日(火) 予算委員会<br/>主任会議<br/>入学者選抜方法研究委員会</p> <p>14日(水) 教授会<br/>人間文化研究科前期専攻会議</p> <p>15日(木) 事務職員特別研修</p> <p>16日(金) 学長候補者選考規程の見直しに関するワーキング・グループ</p> <p>19日(月) 学芸員課程委員会<br/>学長補佐会議</p> <p>20日(火) 親和会役員会<br/>基本計画委員会<br/>部局長会議<br/>人間文化研究科専任教員会議</p> <p>21日(水) 人間文化研究科専攻長会議<br/>附属図書館運営委員会<br/>カリキュラム委員会<br/>代議員会<br/>評議会</p> <p>22日(木) RI実験室運営委員会<br/>今後のお茶の水女子大学のあり方に関する検討会<br/>事務職員特別研修</p> |
|--|--|



- 23日（金）事務連絡協議会  
レクリエーション運営委員会  
極低温実験室運営委員会  
国際交流委員会留学生専門委員会
- 26日（月）国家公務員共済組合年次監査（～27日）  
ジェンダー研究センター運営委員会
- 27日（火）学生委員会  
生活科学部カリキュラム小委員会
- 28日（水）理学部第3年次編入学試験  
文教育学部入試方法検討委員会  
外国人留学生懇談会
- 29日（木）附属学校委員会  
学長候補者選考規程の見直しに関するワーキング・グループ  
事務職員特別研修  
附属学校教育研究委員会
- 30日（金）S C S事業連絡協議会  
生活環境研究センター運営委員会  
茶水会総会